



SMcli ...

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

目次

SMcli ...	1
テストアラート - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
コンテキスト (Context)	1
構文	1
パラメータ	1
最小ファームウェアレベル	1
AutoSupportバンドルコレクション設定の表示 - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
コンテキスト (Context)	1
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	2
最小ファームウェアレベル	2
アクティブ化ステータスの出力例	2
SMTP配信方式の出力例	3
直接接続のHTTPまたはHTTPS配信方式の出力例	3
プロキシ接続のHTTP配信方式の出力例	3
自動プロキシ設定スクリプト (PAC) のHTTP配信方式の出力例	3
アレイテーブル (すべての配信方法) の出力例	3
AutoSupport 構成のテスト - SANtricity CLI	4
サポートされているアレイ	4
コンテキスト (Context)	4
構文	4
パラメータ	4
最小ファームウェアレベル	4
HTTP / HTTPS配信を使用したテストの例	4
SMTP配信を使用したテストの例	5
AutoSupport の配信方法を指定する - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
コンテキスト (Context)	5
配信方法がSMTPの場合の構文	6
配信方法がSMTPの場合のパラメータ	6
配信方法がHTTP / HTTPSの場合の構文	6
配信方法がHTTP / HTTPSの場合のパラメータ	6
最小ファームウェアレベル	7
例	7
検証	7
AutoSupport ログのキャプチャまたは表示 - SANtricity CLI	7

サポートされているアレイ	8
コンテキスト (Context)	8
構文	8
パラメータ	8
最小ファームウェアレベル	9
例	9
検証	9
AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI	9
サポートされているアレイ	9
コンテキスト (Context)	9
構文	10
パラメータ	10
最小ファームウェアレベル	10
例	10
検証	11
AutoSupport メッセージ収集スケジュールの表示 - SANtricity CLI	11
サポートされているアレイ	11
コンテキスト (Context)	11
構文	11
パラメータ	12
最小ファームウェアレベル	12
例	12
EMW管理ドメインレベルでAutoSupportを有効化または無効化する (SMcliのみ) - SANtricity CLI	12
サポートされているアレイ	12
コンテキスト (Context)	13
構文	13
パラメータ	13
検証	13
最小ファームウェアレベル	13
EMW管理ドメインレベルでAutoSupport OnDemand機能を有効化または無効化する (SMcliのみ) - SANtricity CLI	14
サポートされているアレイ	14
コンテキスト (Context)	14
構文	14
パラメータ	14
検証	14
最小ファームウェアレベル	15
EMW管理ドメインレベルでAutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする (SMcliのみ) - SANtricity CLI	15
サポートされているアレイ	15
コンテキスト (Context)	15

構文	15
パラメータ	15
検証	15
最小ファームウェアレベル	16
自動サポートバンドル収集構成のスケジュール - SANtricity CLI	16
日次/週次スケジュールを作成するための構文	16
月次/年次スケジュールを作成するための構文	16
スケジュールを削除するための構文	17
パラメータ	17
注：	22
最小ファームウェアレベル	23

SMcli ...

テストアラート - SANtricity CLI

SMcli alertTestコマンドは、Windowsイベントログおよび設定されているすべてのsyslogレシーバにテストアラートを送信します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません

構文

```
SMcli -alertTest
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.83

AutoSupportバンドルコレクション設定の表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportConfig showコマンドは、管理ドメインのAutoSupport バンドル収集設定を表示します。これらの設定は、AutoSupport を有効にしている管理ドメイン内のすべてのストレージアレイに適用されます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E2800またはE5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)

このコマンドからのコマンド出力は、次の設定情報を表示します。

- AutoSupport 機能、AutoSupport OnDemand機能、およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の管理ドメインのアクティブ化ステータス
- 設定された配信方法に応じた配信パラメータ：
 - 配信方法がSMTP：送信先のEメールアドレス、メールリレーサーバ、および送信者のEメールアドレスが表示されます
 - 配信方法がHTTPまたはHTTPS：
 - 直接接続-宛先IPアドレスが表示されます
 - プロキシサーバ接続-ホストアドレス、ポート番号、および認証の詳細が表示されます
 - 自動プロキシ設定スクリプト（PAC）接続-スクリプトの場所が表示されます
- ストレージアレイごとに、アレイの名前、ASUP対応アレイかどうか、シャーシのシリアル番号、およびアレイのコントローラのIPアドレスをリストするテーブル

コンテキスト（Context）



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

構文

```
SMcli -autoSupportConfig show
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.25

アクティブ化ステータスの出力例

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management station.
The AutoSupport OnDemand feature is de-activated on this storage
management station.
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is de-activated on this storage
management station.
```

SMTP配信方式の出力例

```
Delivery method: SMTP
Destination email address: http://asupserver.corp.netapp.com/put/AsupPut/
Mail relay server: server.eng.netapp.com
Sender email address: user@netapp.com
```

直接接続のHTTPまたはHTTPS配信方式の出力例

```
Delivery method: HTTP
Destination IP address: http://asupserver.corp.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
```

プロキシ接続のHTTP配信方式の出力例

```
Connection: Proxy server
Host Address: 10.227.76.123
Port number: 8080
Authentication required: Yes
User name: admin
Password: *****
```

自動プロキシ設定スクリプト（PAC）のHTTP配信方式の出力例

```
Connection: Automatic proxy configuration script (PAC)
Script location: http://esgweb.eng.netapp.com/~user/proxy.pac
```

アレイテーブル（すべての配信方法）の出力例

Name	AutoSupport Capable	Chassis Serial Number	IP Address
SA_1	Yes (enabled)	SX94500434	10.113.173.123,
			10.113.173.456
SA_2	Yes (disabled)	SX94607107	10.113.174.789,
			10.113.174.345
SA_3	No	Not available	10.113.59.58,
			10.113.59.59

AutoSupport 構成のテスト - SANtricity CLI

テスト・メッセージを送信してAutoSupport 構成をテストするには'SMcli -autoSupportConfig test'コマンドを使用しますこのコマンドは管理ドメインで動作します。テストメッセージに含めるサンプルデータとして、管理ドメイン内のAutoSupport対応の阵列が選択されます。

サポートされている阵列

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージ阵列を一度に削除します。E2800またはE5700のストレージ阵列には適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



スケジュールされたAutoSupport メッセージまたはイベントトリガー型メッセージを送信するには、管理ステーションでPersistent Monitorが実行されている必要があります。このコマンドを使用する前にサービスを開始してください。

構文

```
SMcli -autoSupportConfig test reply-toEmail<address>
```

パラメータ

次の表に、AutoSupport テストメッセージを送信するためのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「test」 ようになります	コマンドの必須パラメータ。値は不要です。
「返信メール」	SMTP配信タイプのAutoSupport メッセージの返信先のEメールアドレスを指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.25

HTTP / HTTPS配信を使用したテストの例

HTTPまたはHTTPS配信タイプを使用する場合のこのコマンドの使用例を次に示します。配信用のEメールアドレスは指定しません。


```
SMcli -autoSupportConfig test
The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway.

SMcli completed successfully.
```

SMTP配信を使用したテストの例

このコマンドの使用例を次に示します。SMTP配信方式を使用する場合は、「reply-toEmail」パラメータを使用して宛先アドレスを指定できます。

```
SMcli -autoSupportConfig test reply-toEmail:user@netapp.com
The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway.

An email has been sent to 'user@netapp.com', please check the mailbox
for delivery confirmation.

SMcli completed successfully.
```

AutoSupport の配信方法を指定する - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportConfig コマンドは、AutoSupport メッセージを送信する配信方法を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

AutoSupport メッセージを送信するには、次の2種類の配信方法を作成します。

- SMTP — AutoSupport メッセージを送信するための配信方法として電子メールを使用する場合はこの方法を使用します
- HTTP/HTTPS — HTTPまたはHTTPSプロトコルを使用してAutoSupport メッセージを送信する場合はこの方法を使用しますAutoSupport OnDemandまたはAutoSupport Remote Diagnosticsを使用する場合は、HTTPSを使用する必要があります。

配信方法が**SMTP**の場合の構文

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=SMTP  
mailRelayServer=<mailRelayServerName> senderMail=<senderEmailAddress>
```

配信方法が**SMTP**の場合のパラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	AutoSupport メッセージの配信方法を指定できます。有効な選択肢はSMTPです。同様に有効なHTTPまたはHTTPSの使用については、このトピックの次のセクションを参照してください。
mailRelayServer'	AutoSupport メッセージのメールリレーサーバを指定できます。
「senderMail」	AutoSupport メッセージの送信元Eメールアドレスを指定できます。

配信方法が**HTTP / HTTPS**の場合の構文

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod={HTTP|HTTPS}  
  {direct|proxyConfigScript=<proxyConfigScript>| proxyServer  
  hostAddress:<address>portNumber=<portNumber>  
  [userName=<userName>password=<password>]} }
```

配信方法が**HTTP / HTTPS**の場合のパラメータ

次の表に、配信方法がHTTP / HTTPSの場合のパラメータを示します。

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	AutoSupport メッセージの配信方法を指定できます。有効な選択肢はHTTPSとHTTPです（もう1つの選択肢であるSMTPの使用については、前のセクションを参照してください）。
「直接」	HTTPSまたはHTTPプロトコルを使用して、テクニカルサポートのシステムに直接接続できます。
proxyConfigScript	Proxy Auto-Configuration（PAC）スクリプトファイルの場所を指定できます。

パラメータ	説明
proxyServer	テクニカルサポートシステムとの接続を確立するために必要なHTTP（複数可）プロキシサーバの詳細を指定できます。
「ホストアドレス」	プロキシサーバのホストIPアドレスを指定します。
「portNumber」と入力します	プロキシサーバのポート番号。proxyServerパラメータを使用する場合、このパラメータは必須です。
「ユーザ名」	ユーザ名。このパラメータは必須です。
「password」と入力します	認証パスワード。このパラメータは必須です。

最小ファームウェアレベル

8.25

例

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=SMTP
mailRelayServer:server.eng.netapp.com
senderEmail:user@netapp.com
```

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=HTTPS
proxyServer hostAddress:10.117.12.112 portNumber=8080
userName=user password=0987654321
```

検証

SMcli -autoSupportConfig testコマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

AutoSupport ログのキャプチャまたは表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportLogコマンドを使用すると、AutoSupport ログファイルを表示できます。このファイルには、ステータスに関する情報、送信アクティビティの履歴、およびAutoSupport メッセージの配信中に発生したエラーが格納されます。AutoSupportに対応したストレージアレイとAutoSupportが有効なストレージアレイのすべてについてログを使用できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト（Context）

このコマンドを使用すると、次の2種類のログを表示できます。

- 現在のログ-現時点でキャプチャされたログを表示します。
- アーカイブログ-アーカイブファイルからログを表示します。



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

構文

```
SMcli -autoSupportLog (all|-n "<em>storageArrayName</em>" | -w  
"<em>wwID</em>")  
inputArchive=<em>n</em> outputLog=<em>filename</em>
```

パラメータ

次の表に、コマンドのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「すべて」	このパラメータは、管理ドメイン内のすべてのストレージアレイの転送ログを、AutoSupport が有効になっているAutoSupport 機能を使用して作成する場合に使用します。
<i>n</i>	AutoSupport ログを表示するストレージアレイの名前。
「w」	AutoSupport ログを表示するストレージアレイのWorld Wide Identifier（WWID）。
「inputArchive」と入力します	アーカイブされたAutoSupport ログを指定できます。アーカイブ・ファイルは'0～5の整数である' <i>n</i> 'です <div> このパラメータを省略する場合は、現在のAutoSupport ログ（現時点でキャプチャ）を選択します。</div>

パラメータ	説明
「outputLog」と入力します	出力AutoSupport ログファイル名を指定できます。 <div>  このパラメータは必須です。 </div>

最小ファームウェアレベル

8.25

例

```
SMcli -autosupportLog -n StorageArrayName inputArchive=0
outputLog=ASUPTransmissionLog
```

検証

要求したAutoSupport ログを確認します。ログは、ストレージ管理ソフトウェアがインストールされているクライアントディレクトリにあります。

AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI

SMcli autoSupportSchedule resetコマンドは、AutoSupport メッセージが送信される毎日および毎週の時刻と曜日をリセットします。管理ソフトウェアが生成するデフォルトのランダムな値をそのまま使用することも、このコマンドで値を指定することもできます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ソフトウェアは、日単位と週単位のメッセージに関しては時刻を、週単位のメッセージに関しては曜日を、ランダムに選択します。管理ソフトウェアは、1つの管理ドメイン内の2つのストレージアレイがスケジュールされたAutoSupport メッセージを同時に送信しないように対処します。

- 管理ドメイン内のストレージアレイについて、毎日および毎週のどのタイミングでメッセージを送信するか（時間単位）を指定できます。
- 週次スケジュールの場合は、AutoSupport による収集と送信を優先する曜日を選択します。

構文

```
SMcli -autoSupportSchedule reset | (dailyTime=<startTime>-<endTime>
    dayOfWeek=[Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday]
    weeklyTime=<startTime>-<endTime>)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「リセット」	スケジュールをリセットし、24時間/週7日（日曜日から土曜日）の間隔で新しいスケジュールを生成します。
「dailyTime」	<`startTime`>-<`endTime`>-すべてのストレージアレイのAutoSupport データの収集を開始および終了する時刻を指定します。startTimeとendTimeの形式は、HH：MM[am
pm]にする必要があります。	「DayOfWeek」
[Sunday	Monday
Tuesday	Wednesday
Thursday	Friday
Saturday]すべてのストレージアレイのAutoSupport バンドル収集データの収集を優先する曜日（日曜日から土曜日）を指定します。`_dayofweek`パラメータは角かっこで囲み、スペースで区切る必要があります。	「weeklyTime」
<`startTime`>-<`endTime`>-選択した曜日ごとにAutoSupport バンドル収集データの収集を開始および終了する時刻を指定します。「startTime」と「endTime」はHH：MM[am	pm]の形式で指定する必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.25

例

```
SMcli -autoSupportSchedule dailyTime=10:00am-11:00am  
dayOfWeek=[Monday Thursday Friday] weeklyTime=2:00am-3:00am
```

SMcli -autoSupportSchedule dailyTime = 10 : 00am - 11 : 00am DayOfWeek =[月曜日の金曜日] weeklyTime = 2 : 00am - 3 : 00am

検証

管理ドメインのスケジュールの変更結果を確認するには'SMcli -autoSupportSchedule show'コマンドを使用します

AutoSupport メッセージ収集スケジュールの表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportSchedule showコマンドは、日単位と週単位の両方のAutoSupport メッセージの収集と処理のスケジュールを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

自動サポートバンドル収集のスケジュールに関しては、次の点に注意してください。

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ソフトウェアは、日単位と週単位のメッセージに関しては時刻を、週単位のメッセージに関しては曜日を、ランダムに選択します。
- 管理ソフトウェアは、1つの管理ドメイン内の2つのストレージアレイがスケジュールされたAutoSupport メッセージを同時に送信しないように対処します。
- SMcli -autoSupportSchedule resetコマンドを使用すると、優先される時間帯（時間単位）を指定し、管理ドメイン内のストレージ・アレイの日単位と週単位の両方のメッセージを送信できます。週単位のメッセージのスケジュールに関しては、コマンドを使用して優先される曜日を選択します。

構文

```
SMcli -autoSupportSchedule show
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.25

例

出力には、優先される時間帯に続けて、日単位と週単位のスケジュールが表示されます。



両方のスケジュールの優先される時間帯および曜日を選択しない場合、このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェアがランダムに選択した日単位のスケジュールおよび週単位のスケジュールを表示します。

```
SMcli -autoSupportSchedule show
The AutoSupport daily schedule preferred time range is from 12:00 AM to
01:00 AM.
The AutoSupport weekly schedule preferred time range is from 10:00 PM to
11:00 PM on Thursday, Saturday.
```

Name	Daily Schedule	Weekly Schedule
Accounting	12:55 AM	10:08 PM on Thursdays
Finance	12:02 AM	10:30 PM on Saturdays

```
SMcli completed successfully.
```

EMW管理ドメインレベルでAutoSupportを有効化または無効化する（SMcliのみ） - SANtricity CLI

SMcli enable autoSupportFeatureコマンドは、すべての管理対象ストレージアレイのAutoSupport（ASUP）機能をオンにし、テクニカルサポートサイトにメッセージを送信できるようにします。ASUP機能を有効にすると、サポート関連データを収集してテクニカルサポートに送信できるように、ASUP対応のストレージアレイが自動的に準備されます。このデータは、リモートでのトラブルシューティングや問題の分析に使用できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



AutoSupport 機能を使用するには、Persistent Monitorが有効になっている必要があります。



これまでテクニカルサポートサイトに送信された顧客データはありません。

このコマンドは、管理ドメイン内のすべてのASUP対応ストレージレイに影響します。管理ドメインでこの機能を有効にすると、各ストレージレイでこの機能を制御できるようになります。

この機能を有効にしたあとに、必要に応じてAutoSupport OnDemand機能を有効にし、さらに必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。

3つの機能は、次の順序で有効にする必要があります。

1. * AutoSupport を有効にします。*
2. * AutoSupport OnDemand*を有効にします
3. * AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします。*

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportFeature
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig showコマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の行に、有効化のステータスが表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management station.
```

最小ファームウェアレベル

7.86

EMW管理ドメインレベルでAutoSupport OnDemand機能を有効化または無効化する（SMcliのみ） - SANtricity CLI

SMcli enable | disable autoSupportOnDemand コマンドは、AutoSupport OnDemand 機能をオンまたはオフにします。この機能を使用すると、テクニカルサポートはAutoSupport データ送信を調整でき、不足しているサポートデータの再送信を要求できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト（Context）



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

この機能を有効にする前に、まず管理ドメインでAutoSupport 機能を有効にする必要があります。この機能を有効にすると、必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。AutoSupport OnDemand機能が有効になっている場合、AutoSupport リモート診断機能はデフォルトで有効になっています。

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportOnDemand
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig show コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の2行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management station.  
The AutoSupport OnDemand feature is activated on this storage management station.
```

EMW管理ドメインレベルでAutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする（SMcliのみ） - SANtricity CLI

SMcli enable | disable autoSupportRemoteDiag コマンドは、AutoSupport リモート診断機能をオンまたはオフにします。この機能により、テクニカルサポートは、サポートデータを要求して問題をリモートで診断できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト（Context）



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



このコマンドは、管理ドメイン内のすべてのASUP対応ストレージアレイに影響します。

この機能を有効にする前に、まずAutoSupport 機能、次にAutoSupport OnDemand機能を管理ドメイン上で有効にします。

3つの機能はこの順序で有効にする必要があります。

1. * AutoSupport を有効にします。*
2. * AutoSupport OnDemand*を有効にします
3. * AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします。*

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportRemoteDiag
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig show コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の3行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータス、およ

びAutoSupport Remote Diagnostics機能のステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management
station.
The AutoSupport OnDemand feature is activated on this storage management
station.
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is activated on this storage
management station.
```

最小ファームウェアレベル

8.25

自動サポートバンドル収集構成のスケジュール - SANtricity CLI

SMcli supportbundle scheduleコマンドは1つまたは複数のストレージアレイにサポートバンドルを保存するスケジュールを作成または削除しますシステムと構成の情報をテクニカルサポートに送信して分析と診断を依頼するには、サポートバンドルに情報を収集します。



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

次の2種類のスケジュールを作成できます。

- 日次/週次—新しい構成を監視したり、既存の構成をトラブルシューティングするために頻繁にデータを収集する必要がある場合は、このスケジュールを使用します。
- 月次/年次-ストレージアレイの長期的な運用を評価するためにデータを収集する場合は、このスケジュールを使用します。

日次/週次スケジュールを作成するための構文

```
SMcli -supportBundle schedule enable
(all | <em>storageArrayName</em>)
startTime=<em>HH:MM</em>
startDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
endDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
daysOfWeek=[Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday]
data=<em>pathName</em>
```

月次/年次スケジュールを作成するための構文

```
SMcli -supportBundle schedule enable
(all | <em>storageArrayName</em>)
startTime=<em>HH:MM</em>
startDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
endDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
months=[January February March April May June July August September
October
November December]
weekNumber=(First|Second|Third|Fourth|Last)
dayOfWeek=(Sunday|Monday|Tuesday|Wednesday|Thursday|Friday|Saturday) |
onDays=[1-31] |
data=<em>pathName</em>
```

スケジュールを削除するための構文



このコマンドは、ストレージレイのスケジュールを完全に削除します。サポートバンドル情報の保存を再開するには、新しいスケジュールを作成する必要があります。

```
SMcli -supportBundle schedule disable
(all|<em>storageArrayName</em>)
```

パラメータ

次の表に、日次/週次スケジュールのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「enable」を選択します	重大なMELイベントが検出されたときに、サポートバンドルの自動収集を有効にします。このパラメータを指定すると、一時停止されていたサポートバンドルデータの収集が再開されます。新しいスケジュールを作成したり既存のスケジュールを変更したりするときは、このパラメータを使用する必要があります。
「すべて」	ホストで検出されたすべてのストレージレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。
「 <i>storageArrayName</i> 」のように指定します	スケジュールを設定する特定のストレージレイの名前。

パラメータ	説明
「startTime」と入力します	<p>サポートバンドルの収集を開始する時刻。時刻の入力形式はHH：MMで、HHは時間、MMは分です。24時間制を使用します。</p> <p>デフォルトの時刻は00：00、深夜0：00です。開始時刻を入力せずにサポートバンドルの収集を有効にすると、データの収集は午前0時に自動的に実行されます。</p>
「startDate」と入力します	<p>サポートバンドルデータの収集を開始する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトは現在の日付です。</p>
「endDate」	<p>サポートバンドルデータの収集を停止する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトはnoneです。</p> <p>このパラメータを使用する場合は、開始日から1週間以上経過した過去ではない日付を指定する必要があります。</p>
曜日	<p>サポートバンドルデータを収集する曜日または曜日。1日以上の日曜日にサポートバンドルデータを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 5px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>daysOfWeek=[Tuesday]</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 5px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>daysOfWeek=[Monday Wednesday Friday]</p> </div> <p>曜日は角カッコ（[]）で囲みます。複数の日を入力する場合は、各日をスペースで区切ります。</p>

パラメータ	説明
「データ」	<p>サポートバンドルデータの保存先となるファイルパスとファイル名。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\data.txt"</pre> <div>  <p>任意のファイル拡張子を使用できます。</p> </div> <p>ファイルのパスと名前は二重引用符（"）で囲みます。</p>

次の表に、月次/年次スケジュールのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「enable」を選択します	<p>重大なMELイベントが検出されたときに、サポートバンドルの自動収集を有効にします。このパラメータを指定すると、一時停止されていたサポートバンドルデータの収集が再開されます。新しいスケジュールを作成したり既存のスケジュールを変更したりするときは、このパラメータを使用する必要があります。</p>
「すべて」	<p>ホストで検出されたすべてのストレージアレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。</p>
「storageArrayName」	<p>スケジュールを設定する特定のストレージアレイの名前。</p>
「startTime」と入力します	<p>サポートバンドルの収集を開始する時刻。時刻の入力形式はHH：MMで、HHは時間、MMは分です。24時間制を使用します。</p> <p>デフォルトの時刻は00：00、深夜0：00です。開始時刻を入力せずにサポートバンドルの収集を有効にすると、データの収集は午前0時に自動的に実行されます。</p>
「startDate」と入力します	<p>サポートバンドルデータの収集を開始する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトは現在の日付です。</p>

パラメータ	説明
「endDate」	<p>サポートバンドルデータの収集を停止する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトはnoneです。</p>
「月」	<p>サポートバンドルデータを収集する年の特定の月または月。1か月以上のサポートバンドルデータを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <pre>months=[June]</pre> <pre>months=[January April July October]</pre> <p>月は角カッコ（[]）で囲みます。複数の月を入力する場合は、各月をスペースで区切ります。</p>
「weekNumber」	<p>サポートバンドルデータを収集する週。例：</p> <pre>weekNumber=first</pre>
「DayOfWeek」	<p>サポートバンドルデータを収集する曜日。1日のサポートバンドルデータのみを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <pre>dayOfWeek=Wednesday</pre>

パラメータ	説明
「onDays」	<p>サポートバンドルデータを収集する特定の日にちと曜日。例：</p> <div>onDays=[15]</div> <div>onDays=[7 21]</div> <p>日は角カッコ ([]) で囲みます。複数の日を入力する場合は、各日をスペースで区切ります。</p> <div>  <p>'onDays'パラメータは'weekNumber'パラメータまたは'DayOfWeek*'パラメータのいずれかでは使用できません</p> </div>
「データ」	<p>サポートバンドルデータの保存先となるファイルパスとファイル名。例：</p> <div>file="C:\Program Files\CLI\sup\data.txt"</div> <div>  <p>任意のファイル拡張子を使用できます。</p> </div> <p>ファイルのパスと名前は二重引用符 ("") で囲みます。</p>

次の表に、スケジュールを削除する場合のパラメータを示します。

パラメータ	説明
「不可能」	<p>サポートバンドルの自動収集を無効にし、以前に定義されたすべてのスケジュールをただちに削除します。</p> <div>  <p>スケジュールを無効にすると、そのスケジュールも削除されます。</p> </div>
「すべて」	<p>ホストで検出されたすべてのストレージレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。</p>

パラメータ	説明
「storageArrayName」	スケジュールを設定する特定のストレージアレイの名前。

注：

allパラメータを使用してすべてのストレージ・アレイに共通のスケジュールを設定すると、個のストレージ・アレイのスケジュールは削除されます。すべてのストレージアレイに1つのスケジュールが設定されている場合、新たに検出されたストレージアレイには同じスケジュールが適用されます。すべてのストレージアレイに1つのスケジュールを設定したあとに単一のストレージアレイにスケジュールを設定すると、新たに検出されたストレージアレイにはスケジュールは設定されません。

このコマンドの使用例を次に示します。最初の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の日次/週次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はDevKit4
- 収集開始時刻は02：00（午前2時）
- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは毎週月曜日と金曜日に収集されます
- このスケジュールには終了日はなく、'SMcli supportbundle schedule disable'コマンドを実行することによってのみ停止できます

```
SMcli -supportBundle schedule enable DevKit4 startTime=02:00
startDate=05:01:2013 endDate=05:10:2014 daysOfWeek=[Monday Friday]
```

2番目の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の月次/年次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はeng_usersです
- 収集開始時刻は04：00（午前4時）
- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは3月、4月、5月、6月、8月に収集されます
- 各月の1日と21日にデータが収集されます
- このスケジュールには終了日はなく、'SMcli supportbundle schedule disable'コマンドを実行することによってのみ停止できます

```
SMcli -supportBundle schedule enable eng_stor1 startTime=04:00
startDate=05:01:2013 months=[March April May June August] onDays=[1 21]
```

3番目の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の月次/年次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はfirmware_2です

- 収集開始時刻は22：00（夜10：00）
- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは3月、4月、5月、6月、8月に収集されます
- 各月の最初の週の金曜日にデータが収集されます
- このスケジュールは05：10：2014（2014年5月10日）に終了

```
SMcli -supportBundle schedule enable firmware_2 startTime=22:00  
startDate=05:01:2013 endDate=05:10:2014 months=[March April May June  
August]  
weekNumber=First dayOfWeek=Friday
```

最小ファームウェアレベル

7.83

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。